

を問う！



(6 議員が登壇)



西内 議員

質 問

乳がんの早期発見を促すため、高濃度乳房体質であることの通知や超音波検査を実施しては。

町 長

高濃度乳房への対応が確立していないため、一律に通知することは時期尚早。今後も国の指針に従いマンモグラフィ検査を実施し、要精密検査者には文書通知や面接による結果報告を行う。

Q セルフチェック（自己触診）を推進する取組みについてどう考えるか。

A 保健福祉課では模型やグループの推進を行っており、今後も更に推進を図っていきたい。グループの配布までは現段階では考えていない。

Q 乳がん対策を何歳から始めるべきかの考えを伺う。

A 基本的には30歳代を積極的に実施していきたい。20歳代では基本健診を中心としながら希望者にはがん検診も受けるこ

とができる体制を実施していく。

質 問

公共施設における受動喫煙対策の現状と受動喫煙防止への取組みは。

町 長

施設管理者として受動喫煙防止の措置を実施。学校教育施設、社会教育施設では施設内禁煙とし、敷地内での喫煙は子供に影響のない場所に喫煙場所を設置。児童館、保育所は敷地内完全禁煙としている。

Q 町ぐるみでの対策として受動喫煙防止ガイドラインを策定してはどうか。

A 行政としてガイドラインを策定しても注意喚起に留まってしまうため、現時点でガイドラインの策定は考えていない。

Q 若年者層への喫煙防止の働きかけをどのように考えるか

A タバコの害を認識できるような学校の授業等で取り上げ、大人になった時に自分の体を守る判断ができるよう働きかけを行っていく。



小玉 議員

質 問

空き家の公益的活用に向けた取組みを行うべきでは。

町 長

空き家は住宅としての利用を促進することを一番に考え、定住促進を進めていきたい。

Q 空き家のマッチング支援を行うことに対する考えは。

A マッチングを行うことで、今任んでいる人が出ていくというマイナス効果も懸念されることから、住み続けることを維持できるように将来的に検討していく。



鈴井 議員

質 問

野生鳥獣が増殖するなか、本町の鳥獣被害対策をもっと進めるべきではないか。